



こんにちは 日本共産党

清水とし子です

発行・日本共産党日野市議会議員 清水とし子

日野市多摩平4-1-1 (清水事務所)

メール jcpsimi@jcom.zaq.ne.jp

Facebook「清水登志子」で検索

携帯 090-6102-7555、事務所 042-582-1042

学校図書館がひらく「学び」の可能性

1月16日、日本共産党日野市議団は、杉並区の高井戸第三小学校の学校司書の活動と、同校内にある済美（せいび）教育センターの学校図書館支援について視察をしました。

最初に、2年生の「図鑑で調べよう」の授業を見学。

学校司書の方の指導のもと、目次や索引を使って目的の昆虫の名前や「見られる時期」などを調べる方法を子どもたちが学ん

でいました。驚いたのは、使う昆虫図鑑が一人一冊あること。これなら、自分で実際に調べることができます。

図鑑での調べ方を覚えた子どもたちは、向いの席の子どもと「〇〇という虫は、何月から何月まで見られるでしょう？」と、クイズを出し合っていました。

図鑑を使った調べ方の習得は、3年生になって、「虫の体のつくり」について学ぶときに、役立つのだそうです。

「調べる力」は、自発的な学びにつながる

この授業の指導案や、プリント等を準備したのが、学校図書館に配置されている学校司書の方。この授業のためには生徒一人一冊の図鑑が必要だと、一クラス分そろえたのも学校司書の方です。

高井戸第三小学校では、1年生から6年生まで計画的に、図書館の使い方、予約の仕方、検索パソコンの使い方、参考図書の種類、参考文献の書き方などを学ぶオリエンテーションも行っています。

このように「調べる力」を身に着けることで、子どもたちは自分で課題を発見し、解決していくようになり、学びの幅が広がります。
(写真右：高井戸第三小学校前で日野市議団)



学校司書を支援する学校図書館支援担当

杉並区では、学校図書館を「読書センター」だけでなく、学習活動を支える「学習・情報センター」として位置づけ、その運営体制を充実・強化するために全校に一人の学校司書を配置しています。

そして、学校司書や教職員に対して研修・相談活動を行っているのが、済美教育センターの学校図書館支援担当（学校図書館サポートデスク）です。

学校図書館支援担当は、担当係長、教員・学校司書経験者の非常勤職員4名、合計5

名の体制です。図書の購入や廃棄する本についての相談活動や、学校司書に対して各学校での取り組み事例の紹介や講演会などの研修、教員に対し教科における学校図書館の活用方法などの研修を行っています。

高井戸第三小学校の学校司書の方は、「以前別の自治体で学校司書をやっていた時、こうした窓口がなかったので、わからないことや相談したいことを聞くところがなかった。

困ったとき聞けるところがあるのはありがたい」と述べていました。

求められる専門性、仕事量に見合わぬ報酬

「棚にぎっしりと本があれば、子どもが来るかという、そうでもありません。古い本、傷んだ本を廃棄して、少し隙間ができる方が、子どもは本が選びやすくなって貸し出しは多くなるのです」と、学校司書の方が教えてくれました。

この廃棄と購入の作業が、学校図書館にとってとても大切な作業ですが、どの本を

捨て、どの本をそろえるかは、高い専門性が必要です。

しかし、学校司書の待遇は非常勤、週5日、一日6時、間時給は1,390円～1,620円。時給が最高となる6年目の方でも月17～19万円です。仕事にふさわしい処遇や賃金が求められます。

図書購入費は日野市の2倍！

高井戸第三小学校の図書購入費は、年間100万円。日野市の学校図書購入費は、1校当たり46～47万円ですから、高井戸第三小学校の半分以下です。

子どもたちの読書センター、学習・情報センターにふさわしい予算の配分を求めていくことが必要です。

視察を終えて

今回の視察で、学校図書館の活用によって、子どもたちの自主的な学びが豊かに広がっていくことが、よくわかりました。

そのためには、十分な図書購入予算と、専門性を持った学校司書が不可欠です。

視察で学んだことを、日野市政に生かしていきたいと思います。



学校図書館にある畳の読書コーナー